

令和5年度 練馬区立学校の適正規模・適正配置検討委員会（第1回）	
開催日時	令和5年6月29日（木）14時00分～15時30分
開催場所	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室
出席委員	13名
欠席委員	なし
次 第	1 開 会 2 委員委嘱 3 委員紹介 4 案 件 (1) 適正規模・適正配置検討委員会の設置と検討経過 (2) 新たな適正規模・適正配置の考え方について (3) その他
■ 要点記録	
(1) 適正規模・適正配置検討委員会の設置と検討経過	
事務局	(資料説明)
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は委員会を数回開催し、最終的に答申をいただきたいと考えている。区は、それを受けて今年度末に適正配置の基本方針を策定する。 ○ 適正配置の必要性については、子どもが減っているということ。また、老朽化が進んでいる校舎を建替えようとする、必然と建物が低くなる、あるいは道路を広げなくてはいけないため敷地が狭くなることで、同じ規模の建物が建てられないという状況がある。その中でどのように効率的に建物を改築、改修していくか検討していく必要がある。
(2) 新たな適正規模・適正配置の考え方について	
事務局	(資料説明)
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 98校ある学校のうちの約半分が粗上に上がる。今後、様々な角度から検討し、最終的に対象となる学校を決める。 ○ 資料4の3「将来推計の算出方法」の数字は今後変わるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大江戸線が区の北西部に向かって3駅分延伸予定だが、そのエリアの人口増を担当課で検討する。最終的な人口推計は、その要素が加味されたものを使用したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、小中学校の児童・生徒数は総じて減少していく。委員の校長先生の中には、過小規模校や単学級がある学校を経験された方もいると思うが、学校運営上どういった影響があるか。

三浦委員長	○ 学校の規模が児童・生徒や学習に与える影響はどうか。
委員	○ 単学級は密な人間関係ができるということもあるが、クラス替えができる最低2学級は必要。単学級だと学年を担当するのも1人の教師だが、少なくとも2学級で2人、できれば3人で相談できる体制がほしい。18学級が適正規模となっているが、肌感覚では4学級まではぎりぎり、5学級以上となると厳しい。
委員	○ クラス替えができない場合、様々な人や多様な意見と関わるできないというデメリットが考えられる。一方、仲の良い学年が卒業まで続くというメリットもあるかと思うが、クラスの運営や人間関係など、クラス替えをして新しい環境にすることによって、子どもたちにとって望ましい体制づくりができるということもあるのか。
委員	○ やはり小学校は学級担任制で中学校ほど定数もないため、1、2年で集団を変える、新しい人間関係にリセットできる可能性を作ることが大切である。結果的にクラス替えをしない場合もあるが、単学級だとクラス替えをする可能性もないということになってしまう。
三浦委員長	○ 中学校の先生方はいかがか。
委員	○ 以前小学校にいたとき、単学級のため小中一貫に統廃合となった。単学級は人間関係が固定化し、いじめ等の問題が出てきたときに逃げ場がない。また当時から特別支援的な児童が多数いて、学級が成り立たないという状況があった。 ○ 中学校は単学級だと部活動が厳しい。13学級の本校も保護者から部活を増やしてほしいという希望がある。 ○ クラス替えについてはプラスマイナス両方の面があるが、人間関係の新しい構築など生きる力を育てる上では必要な措置。個人的な見解では、9クラスが適当。運動会、合唱コンクール等で競わせることもでき、管理職でも生徒1人1人に目が行き届く。 ○ 大規模校になると、例えば通知表の所見やテストの作成、学級通信など、全部を見るとなると日々それで終わってしまう。
委員	○ 本校は10クラス、1年生が4クラスで、2・3年生が3クラス。それぐらいの規模だと生徒の顔もよく分かる。 ○ 人間関係が固定化してくると、何かトラブルがあった際に学校に来づらくなってしまいう課題もある。3クラスか4クラスぐらい、生徒の顔が1人1人見える規模であると、学校運営も非常にやりやすい。
委員	○ 全く同じである。
三浦委員長	○ **委員、保護者の立場からいかがか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定校の**中は部活動が多いため何の疑問もなく進んだが、結局外部のクラブチームに入り、学校の部活動を利用しなかった。部活動で学校を選ぶ保護者は多いが、実際は学校以外で活動を探している。 ○ 先生たちの話を聞いて、過大規模校よりも学級が少ない学校の子たちは恵まれていると感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校内ではなく、外部に受け入れているクラブがあることが大都市ならではのと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の忙しさが現実としてあり、一方で子どもたちが活躍できる環境の提供という両方の面がある。
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の働き方は社会的に問題になっていて、部活動の外部移行も行われている。外部の場合、費用等の課題が非常に多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ この委員会で求められている最終答申は、候補校をフローチャートの視点から検討して対象校を出すという理解か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な学校までは考えていない。答申のイメージとしては、規則の(1)の「小・中学校の適正規模に関すること」については、例えばこの委員会としてはこのように考えるべきとか、この方針、計画については考え方の方向性を示していただくというような形で考えている。 ○ 今後、方針を作る上で一定の考え方が必要。特に(2)の部分、「小・中学校の適正配置の方針および計画に関すること」に関しては、資料のフローチャートの流れでよろしいかどうか、このような考え方で方針や計画を作ることがよいかどうか、そういった答申をしていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 検討の対象とする47校の学校は参考ということになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口推計が更新されると47校は変わる。このフローの最後の対象校を公表することは今の段階では考えていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の少子化対応として、子どもたちの教育環境が学校によって大きな差がないように、適正配置、統廃合という手法を考えざるを得ない状況にある。どういう視点で進める必要があるのか、こういった点が妥当な方策なのか、委員の皆様からそういったご意見、答申をいただくことになる。
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ その他いかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ **委員の見聞きするところで、この少子化を踏まえた、例えば学校運営や都市インフラ、施設的なところなど、最近の動向はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の統廃合には大変な反発があるため、ある自治体では地域づくりとか、コミュニティ施設としての機能転換も含めて検討していると聞いている。 ○ 方針の素案というのは、少し踏み込んだ内容になるのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 方針については、この委員会の答申を受けて、最終的には冊子形式で区の状況や考え方をまとめていきたいと考えている。それを区民の皆様に公表して意見をいただくという流れになる。 ○ 公共施設等総合管理計画という区の施設管理に関しての計画は別にある。方針を策定してそれをどう計画に反映させていくかというところは、我々が別途考えなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料4の3ページ、フロー図の「余剰教室があるか」は、こういった考え方で余剰と扱うのか。例えば本校では、学童クラブの教室や外国語教室があるが、それを普通教室にするということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状況によって大きく2つに分かれる。例えばAとBという学校があって、Aが廃校となる場合、今現在のBの校舎で受け入れると、先生の言った状況が起きる。もう一つが、Bの学校を改築して、Aを受け入れられる校舎を作るというものである。改築する方は、教室をあらかじめ作っておくことは可能だが、今ある学校で統合する場合は外国語教室等を転用するということもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の教室数だけで考えていると思うが、少人数対応をしたときに、2学級だと3つの教室がないと授業が展開できない。その辺は通常学級数に加えて考えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校は英語と数学に少人数があり、小学校は算数だと認識している。小学校には学童があるということも課題だと考えている。
三浦委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回は、大きな考え方ということで、実際に進めるとなると詳細に検討する必要がある。